

令和6年度 第3回学校運営協議会 議事録

静岡県立掛川特別支援学校

1 日時 令和7年1月27日（月）午後1時30分から3時30分まで

2 会場 静岡県立掛川特別支援学校

3 参加者

○委員

会 長 鴻野元希 様

副会長 早川 明 様

コーディネーター 田辺 エミ 様

委 員 横山 孝子 様

委 員 大石 徹 様

委 員 水野 正幸 様

委 員 伊藤 志保 様

○ 学校

校長、副校長、教頭、事務長、小学部主事、中学部主事、高等部主事、肢体不自由教育統括、CSディレクター、教務情報課長、生徒指導課長、防災教育課長、保健給食課長、研修課長、自立活動課長、体育課長、図書表現課長、地域連携課長、キャリア教育課長

4 内容

(1)校長あいさつ

(2)議事

①令和6年度学校関係者評価委員会

ア 教職員、保護者アンケート集約報告

イ 令和6年度学校経営報告書(自己評価)

ウ 令和6年度高等部進路状況

エ 令和7年度学校経営計画

オ 質疑応答

②「地域とともに歩む学校」を目指して（各学部主事、肢体統括）

ア 各学部の実践報告

イ ふれあい活動の今後に向けて

③ 校内コンプライアンス委員会

ア 不祥事根絶取組報告

（ア）交通事犯対策 （イ）体罰根絶（ウ）研修及び注意喚起（エ）その他

イ 各委員会からの提言

(3) 連絡事項

ア 地域販売会について イ 令和6年度卒業証書授与式について

(4)校長あいさつ

(5)閉会

5 議事録

(1) 校長挨拶

今年度最後の学校運営協議会になります。今年度も「地域とともに歩む学校」を念頭に、人、もの、ことを活かした「ふれ活」を充実させながら教育を進めてまいりました。一年間の取り組みを振り返り、評価し、好循環を生む機会としたいです。この協議会の中で忌憚のない皆さんの御意見をいただき、来年度の学校運営をさらに充実させていきたいと思います。

①令和6年度学校関係者評価課委員会

イ 令和6年度学校経営報告書（自己評価）

※第1回にて、取組目標、成果目標を共有しているため、この場では、ア「専門性」、イ「安全性」、ウ「連携」の柱に沿って達成状況、成果と課題について報告。

<御意見・質疑応答>

- ・鴻野委員：実際に、学校の退勤時間はどのようになっているのか。
- ・学校：月曜日から金曜日は19時までに退勤（毎週水曜日は18時退勤）。小学部は毎月1回、金曜日定時退庁日を設けている。
- ・鴻野委員：業務が消化しきれないと聞く。達成状況が100%になるためには、どのような取組みがあるのか検討してほしい。
- ・横山委員：役割分担が上手くいかないことや働き方改革の推進に目を向ける以上に、教員の専門性を、どのように高め、自分でモチベーションを上げていくのが大事。一年間、担当児童生徒関わることで、その子の成長につながり、教員自己肯定感が高まり、自分で自分の力を評価する、次年度へのモチベーションにつなげていくことができる。教員がやる気、専門性が高まる実感を得てほしい。一年間やり切ったと思う教員が大半であるのではと考えると、アンケートの設問に工夫の余地がある。
- ・早川委員：児童生徒が、無事故で毎日楽しく学校へ通えることが最重要である。お互いの立場を尊重し合いながらサポートし合っていくことが大切である。

ウ 令和6年度高等部進路状況（キャリア教育課長）

- ・高等部3年生の進路状況について共有
- ・大石委員：賃金を出す立場からすると、ある程度自立していることが重要になってくる。自社では、障害年金対象者であるかどうかを就業・生活支援センターに確認をしながら進めている。学校にいるうちから連携して年金の学習を進めてほしい。
- ・学校：高等部3年生の保護者に年金説明会を実施。生徒が就業・生活支援センターの見学を実施している。引き続き連携を深めていきたい。
- ・横山委員：就労に向けての考え方が多様化してきている。小学部のうちから、障害の程度関係なしに本人を中心にして、意志を大切に、保護者や関係機関と連携をとって進めてほしい。
- ・鴻野委員：誰も取り残さない社会を目指して、社会性や公共性も大切にしながら、卒業後の居場所づくりも視野に入れながら、ご指導していただきたい。

エ 令和7年度学校経営計画（校長）

- ・働き方改革推進に向けて、「チーム」という柱を追記、強調。
- ・横山委員：特別支援教育の専門性は、①子どもを見る目の専門性（子どもをどのように

理解するのか)、②指導の専門性(指導内容方法がどのような状態で、どうすれば目標が達成できるのか)、③組織の専門性(教員の個性を尊重し、TT間で協力、連携)の3点である。教員が協調してひとつの目標に向かっていくことが大切である。

- ・ 鴻野委員:先生方には、学校の役割が十分に果たされているという自信を持っていたきたい。地域との連携により、身近な避難所に避難することになっているが、その避難所に入れずに二次被害も予想される。地域の支援機関にも携わっていけると良い。災害時どのような方法で避難し、どのような支援を受けられるのかを把握しておくとうい。
- ・ 学校:開校当初より、近隣の「希望の丘」一帯の各事業所との関係性を深めてきていたが、コロナ禍以降合同訓練等の実施ができていない。掛川市と合同の防災会議を設け、本校の危機管理マニュアル改訂に取り組んでいる。児童生徒の発災時の行動について、どのように保護者に安否確認を行い、把握し、地域と連携していくのか校内で調整している。学区が広いため、掛川市以外の市町と会議の場を持つことができていないことが現状である。まうは、掛川市と課題を整理し、連携していく。
- ・ 水野委員:掛川特支と連携を取りながら進めている。他県での障害者施設等に震災の状況から、希望の丘等の各施設同士の繋がりが重要であることも感じている。学校側で全ての備品を用意することは難しい。近隣施設と声を掛け合い持っている資源を出し合って補っていくことが大切である。

③校内コンプライアンス委員会

<各委員会からの提言>

- ・ 鴻野委員:人権振り返りシートは、どのような内容でどう活用しているのか知りたい。
- ・ 学校:本校ではGoogle フォームを活用して実施している。今月の目標に対して、自分自身がどの程度どのように達成できたのかを入力している。記述式欄を設けて、目標に対しての具体的な取り組みや人権に関する気になる点、良かったあらわれ等を記入している。課題については、担当者より口頭でも呼びかけて、改善できるよう取り組んでいる。
- ・ 横山委員:自己評価の心理的な安全の確保について、教職員一人ひとりが気持ちよく働けているのかどうかの基準で自己評価をつけているという押さえでよいか聞きたい。
- ・ 学校:教職員一人ひとりが相手を思いやる心を持つことや、働き方の意識をもつことで業務や会議の効率化と精選をすすめられているかどうか、自分自身が達成できたかどうかを自己評価している。相手を思いやる伝え方や配慮が不可欠であると考えため、今後アンガーマネージメントやアサーションの研修に取り組んでいく。
- ・ 横山委員:先生方は、自分に厳しく評価を付けていると感じる。アンケートの設問に工夫が必要である。
- ・ 学校:子どもたちを中心にしながら、授業づくりの検討をするうえでも、同じ土俵で発言できる関係性を心掛けていきたい。
- ・ 横山委員:心理的安全性という言葉をもどのように解釈していくか、どう先生方に理解してもらえるように伝えるか、共有できるかが大事である。
- ・ 水野委員:他の機関では、働き甲斐ややりがいをもって働いている職員は、ここまで多くないのが実情であるがそこを大事にしてほしい。仕事のための仕事とならないようにしていく必要がある。

- ・伊藤委員：協議会を通して、学びの深い時間であった。自分の子どもが、小学部から入学した生徒であるが、先生方にもっと自信をもってもらいたいと思う。保護者が発言することに構えている先生方がいる。学校と協力していきたいと強く思うが、保護者は働いていたり、子育てで精一杯であったりするため、ジレンマも感じており、消極的になっている保護者もいる。そのため、もっと先生方が自信をもって、子どもの成長や家庭でもできそうなことを共有してくださると、私たちも協力していきたいという気持ちが高まる。日々、先生方は働き方改革と言われているため多忙感を感じ、保護者も学校から離れてしまうのではないかと感じている。もっと先生方と対話をし、手を取りあっていきたい。

(5) 校長あいさつ

貴重な御意見ありがとうございました。来年度に生かしていくこと、私たちも自信をもって、子どもたちの成長のために、保護者、地域の方々と手を取り合って、これからも掛川特別支援学校が前進していきたいと思います。本日はありがとうございます。